

険しい山嶺、壮大な滝、  
いくつものトンネルを抜け、  
心に残る風景の中へ

---

# ミルフォード サウンドの ご紹介

The logo for Real nz is located in the bottom right corner. It consists of the words "Real" and "nz" stacked vertically in a bold, sans-serif font, both in yellow. The text is contained within a white circle that is set against a background of overlapping yellow diamond shapes.

Real  
nz

[www.realnz.com](http://www.realnz.com)

## マオリの歴史

---

# ピオピオタヒ

マオリの伝説によると、フィヨルドランドの海岸線は、トゥテラキファノアという神がテ・ハモ（手斧）で巨大な岩を削って造り上げた、ということです。

なかでも傑作とされるミルフォード・サウンドは、地元マオリの間ではピオピオタヒ（1羽のツグミ）と呼ばれてきました。ピオピオとは固有種のツグミの仲間で、すでに絶滅したと考えられています。伝説では、いくつもの冒険を成し遂げた英雄マウイが亡くなったとき、1羽のツグミがここへ飛んできて喪に服した、と語り継がれています。

また、もうひとつ、アニタ湾<sup>(15)</sup>に由来する別の説もあります。アニタ湾は、古来マオリの人々が道具や宝飾品の材料として珍重したポウナム（グリーンストーン、ヒスイの一種）の産地です。ポウナムを求めてこの地にやってきたカヌーの名前がピオピオタヒであった、と言われていいます。

# はるか頭上から 流れ落ちる滝

---

涸れない滝: 2カ所

レディ・ボーエン滝<sup>(4)</sup>とスターリング滝<sup>(10)</sup>

雨量に応じてできる滝: 多数

数百とも言われています

動物の名前がつけられた山:

ザ・エレファント<sup>(11)</sup> 1,517 m

ザ・ライオン<sup>(9)</sup> 1,302 m

主峰: マイター・ピーク<sup>(7)</sup> 1,692 m

最深部: 海面から 390 m

年間降水量: 6000 mm 以上

---

ニュージーランドで最も  
雨の多い町、ミルフォード。  
世界でもこれほど降水量のある  
場所はまれです。

---

# 船乗りと開拓民

オットセイの猟獲を目的にこの地を訪れたウェールズ人、ジョン・グロノは、自身の出生地であるミルフォード・ヘイブンにちなんで地名をつけました。同じく猟師のスコットランド人、ドナルド・サザーランドはわらぶきの小屋を3つ建てました。<sup>(1)</sup>以来、この小さな集落は「シティ・オブ・ミルフォード」と呼ばれ、1890年からはミルフォード・トラック開拓の拠点となりました。

やがてドナルドの妻エリザベスが集落で宿屋を始めると、ミルフォード・サウンドの比類ない美しさをひと目見ようと、全国各地からも海外からも観光客が訪れるようになりました。

「ミルフォード・ヘイブンは野趣とロマンのあふれる場所だ。高々とそびえる山並みと深い谷が幾重にも続いている。森も豊かで、クイナや緑色の野鳥、エミュのように地面を歩く鳥など、獲物はいくらでもいる。」(野鳥は順にウェカ、カカポ、キーウィに言及)

ジョン・ボルトビー, 1826年  
ザ・エリザベス号 オットセイ猟師



# 手押し車、雪崩の危険

テ・アナウとミルフォード・サウンドを結ぶ国道94号線は、日帰りツアーで必ず通る道路です。沿道には多数の見どころがあり、神秘的な景勝地への旅を一層すばらしいものにしてくれます。

良いものをつくり上げるには時間がかかります。この道路の建設は1930年に始まりましたが、途中第二次世界大戦などで作業が遅れ、完成は1954年になりました。なかでもホーマー・トンネルは難所で、1935年から1953年までかかりました。着工当初の人員はわずか5名。布製のテントと仮設住居に住み込んで、手押し車とツルハシを手人力で掘り始めました。彼らは常に落石や雪崩の危険と隣り合わせでした。崩落の前兆として強大な圧力のかかった暴風が吹くのですが、避難する間もなく何人もの作業員が命を落としました。コンクリート製のシェルターさえ破壊され、トンネルの入り口も瓦礫の下に何度も埋まったということです。



ホーマー・トンネルの工事 1935年当時 ▲



ホーマー・トンネル 1970年 ▲



ファーガス湖付近の道路整備 2010年 ▲

数々の苦境を乗り越えて開通に至ったときの喜びはひとしおでした。なお、1290mのトンネルを安全に通行できるよう、雪崩や土砂崩れの監視とリスク管理は今日も欠かさずに行われています。

ユネスコの世界遺産登録地域内に  
あるミルフォード・サウンド。  
作家のラドヤード・キップリング  
曰く...

---

# "世界で8番目 の不思議"

リアル・ジャーニーズは1954年に観光業と環境保全  
の先駆者、レス&オリブ・ハッチンスが創設した  
家族経営の会社です。ミルフォード・サウンドとダウト  
フル・サウンド、テ・アナウ、スチュアート島、クィーンズ  
タウンで各種ツアーを催行しています。

---

国内無料 ☎ 0800 65 65 01  
contact@realnz.com  
www.realnz.com

---

The logo for Realnz is a white circle containing the text "Realnz" in a bold, black, sans-serif font. The word "Real" is on the top line and "nz" is on the bottom line.

Real  
nz

# 森林の盛衰

付近の山には土がほとんどないため、樹木はむき出しの岩壁にしがみつくように根を張り巡らせ、コケや地衣類を栄養源としています。そのため、雨や雪が大量に降った後などに、木々が雪崩のように斜面を滑り落ちることがあります。斜面に残った汚れの筋は森林が崩落した痕跡です。一見、惨事のようにではありますが、これも自然な過程の一部に過ぎません。

自然現象として起こる山火事が陸上の生態系の新旧交代を促すのと同じように、崩落は新たな成長の始まりでもあります。樹木が無くなった場所には地衣類やコケ類、そして低木が育ち、それを基盤に、また新しい森が再生する仕組みになっているのです。こうして新しい命が次々と大地を覆っていきます。

# 世界遺産

---

ニュージーランドにはユネスコの世界遺産登録地域が3つあります。テ・ワヒポウナム南西ニュージーランドはそのひとつで、ミルフォード・サウンドのあるフィヨルドランド国立公園が含まれています。2600ヘクタールに及ぶ壮大な自然は風光明媚なことで知られ、厳正な審査のうえ、特別に保護すべき存在として認められました。

また、フィヨルドランドだけで10カ所の海洋保護区があり、ミルフォード・サウンド北側の沿岸域690ヘクタールも保護指定されています。海洋保護区内はいかなる捕獲も厳禁で、碇を下ろすことも許されていません。海面下の豊かな生態系は、海中展望台やダイビングで見ることができます。200年を超える黒サンゴも生息しています。

# 2つの世界が 激突する場所

---

地殻変動の力はこの辺りにも働いています。フィヨルドランドの地中では、インド=オーストラリア・プレートが太平洋プレートの下に潜り込んでいます。2つのプレートの接点はアルパイン断層と呼ばれています。南島の背骨にあたるサザンアルプスはこの断層の上に位置し、地殻を押し上げる力によって形成されました。

周辺の地層は古く、一部は4億5000万年前まで遡ることができます。ホーマー・トンネル付近では、まだらのある花崗岩や濃い色のスレート、石灰岩などが見られます。

# 水面下の世界

---

この辺りのフィヨルドの海は二層に分かれています。水面から数メートル下までは山から流れてきた淡水が溜まっていますが、それより下は海水で、性質の異なる水は混ざり合うことなく層をなしています。淡水層は森林の崩落の影響で不純物を多く含み、光が透過しにくくなっています。そのため、水深10mほどの比較的浅い場所に深海性の生物が生息するという珍しい現象が見られます。

生きている森

## 緑豊かな森の中

気候の冷涼なミルフォード・サウンド周辺の降雨林は湿度の高い肥沃な土壌に恵まれており、樹木や蔓植物、シダ、地衣類など多種多様な植物が生育しています。最も多い木はギンブナ(タフアイ)で、樹高は25mくらいまで伸びます。マウンテンビーチ、レッドビーチといったブナの仲間も沿道でよく見かけられます。キャズム付近では最高で50mに達する高木、リムが生育しています。

名前の由来

## サウスアイランド ピオピオ

**別名:** ニューゼーランド ツグミ

**食性:** 雑食 (主に植物の根と実、昆虫)

**特徴:** ニューゼーランドで最もさえずりの美しい鳥と言われていました

**最終目撃情報:** 1905年

**弱点:** おっとりとして人懐こく、害獣に簡単に捕まってしまう



サウスアイランドピオピオ ▲



バンドウイルカ ▲



ケア ▲



ニューゼーランドオットセイ ▲



フィヨルドランドクレストッド  
ペンギン ▲

## 野生動物

# この地をすみかにする生き物

## イルカ

ミルフォード・サウンドにはバンドウイルカがいます。好奇心旺盛で活発なのでクルーズ中に簡単に見つけることができます。このフィヨルドに生息している個体数はおよそ60頭です。マイルカやハラジロカマイルカ(ダスキードルフィン)の姿もしばしば見かけられます。

### バンドウイルカ

**寿命:** 25年くらいまで  
**体長:** 3.8m くらいまで  
**捕食対象:** 魚、イカ  
**最高速度:** 時速 30 km  
**潜水深度:** 200m まで  
**潜水時間:** 約 7分

## ケア

ニュージーランドの国鳥に、と推薦されることもあるケアは、世界で唯一の山岳性のオウムです。知能が非常に高く、手の込んだいたずらをするので「山の道化師」の別名もあります。ただし、近づいたり気を取られたりしないよう注意が必要です。1羽が人の目の前でおどけて見せている間に、別のケアが背後から忍び寄り、荷物を持ち去っていきます。

### ケア

**生存率:** 40%未滿が  
生誕から1年生存  
**生態:** 13羽くらいまでの  
群れで行動  
**天敵:** 人間、1970年までは  
家畜を襲うため狩猟  
可能でした  
**保護:** 1986年以降は法律  
で完全に保護される  
ようになりました  
(New Zealand Wildlife Act)

## オットセイ

ニュージーランド・オットセイは夜の間に海で捕食し、日中は日向ぼっこをして過ごします。19世紀には乱獲で絶滅寸前でしたが、1946年に保護対象になり、現在では周辺海域のあちこちに生息しています。かなりの長距離を泳ぐことができ、タスマン海を渡ることもあります。

### ニュージーランドオットセイ

**体長:** 2m くらいまで  
**捕食対象:** イカ、タコ、魚  
**天敵:** シャチ、サメ、アシカ  
**コミュニケーション:** 吠える、  
うなる、なく  
**潜水深度:** 380m まで  
**潜水時間:** 15分 まで

## ペンギン

フィヨルドランド・クレストッド・ペンギン(マオリ名タワキ)は世界でも珍しい希少種で、両目の上にくっきりとした黄色の筋が通っています。ブルー・ペンギン(マオリ名コロラ)も生息していますが、この世界最小のペンギンはすぐに水面下に隠れてしまうので、よく見ていないとわかりません。いずれも姿を現すのは10月から12月ごろです。

### フィヨルドランドクレストッドペンギン

**体高:** 70cm くらいまで  
**平均寿命:**  
15~20年  
**体重:** 4 kg くらいまで

### ブルーペンギン

**体高:** 25cm くらいまで  
**平均寿命:** 6年程度  
**体重:** 約 1 kg

## タスマン海

### ミルフォード サウンド

## ミルフォード・サウンドの 主な見どころ

1. **ミルフォード ロッジ**: 1878年にドナルド・サザーランドが宿屋を建てた場所にあります
2. **リアル ジャーニーズ ビジター センター**
3. **セメタリー 岬**: ボーエン滝から落ちてきた瓦礫が墓場のように見えることが由来となっていますが、実際に墓地として使われていた過去もあります
4. **ボーエン滝**: 1871年当時のニュージーランド総督の妻の名前にちなんで命名されました
5. **ハリソン コーブ**: ハリソン川河口の天然の良港です
6. **シンバッド 溪谷**: カカポが再発見された場所、フィリップス山、ローレニー・ピーク、ラホトゥに囲まれています
7. **マイター ピーク (ラホトゥ)**: 海底からまっすぐにそびえ立つ山としては世界有数の高さです
8. **コッパー 岬**: この辺りの岩は銅の含有率が高いことから名付けられました。付近で最も風の強い場所です
9. **ザ・ライオン**: 正式名称はキンバリー山ですが、見た目がライオンに似ているのでこの名で親しまれています
10. **スターリング 滝 (ワイ・マナヌ)**: 英国軍艦クリオ号のスターリン船長に由来しています
11. **ザ・エレファント**: 象の頭に似た形をしていることからこの名が付けました
12. **ペンブロック 山 (プヒプヒ・タキワイ)**: フィヨルドの地形を削り出したペンブロック氷河が残る、ミルフォード・サウンドでも有数の雄峰です
13. **海洋保護区**: 690ヘクタールの海域が保護対象となっています
14. **デール 岬**: ミルフォード・サウンド入り口の北端部にあたりますが外洋からはほとんど見えません
15. **アニタ 湾**: 古来マオリの人々がポウナムを採取するために訪れた場所です
16. **セント アン 岬**: 1800年代終わり頃に灯台が設置されました
17. **ディープウォーター ベイソン**: かの有名なミルフォード・トラックの終点にあたります



- ネイチャー・クルーズ
- - シーニック・クルーズ
- 1泊クルーズ
- ミルフォード・トラック

\* クルーズ航路は当日の天候によって異なります

12 ペンブローク山  
2,014 m

11 ザ・エレファント 1,517 m

10 スターリング滝 146 m

9 ザ・ライオン 1,301 m

5 ハリソンコーブ

7 マイターピーク  
1,682 m

6 シンバッド溪谷

4 ボーエン滝  
160 m

1 ミルフォード